

資料5-1

中央教育審議会大学分科会
大学院部会(第94回)
R1.7.30

博士課程教育リーディングプログラム の実施状況

文部科学省高等教育局大学振興課

独立行政法人日本学術振興会
博士課程教育リーディングプログラム委員会事務局

博士課程教育リーディングプログラム

専門分野の枠を超え俯瞰力と独創力を備え、広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーの養成

- 明確な人材養成像を設定。博士課程前期・後期一貫した世界に通用する質の保証された学位プログラムを構築
- 国内外の多様なセクターから第一級の教員・学生を結集した密接な指導体制による独創的な教育研究を実施
- 世界に先駆け解決すべき人類社会の課題に基づき、産・学・官がプログラムの企画段階から参画。国際性、実践性を備えた研究訓練を行う教育プログラムを実施

⇒ 修了者のキャリアパス、博士が各界各層で活躍していく好循環を確立

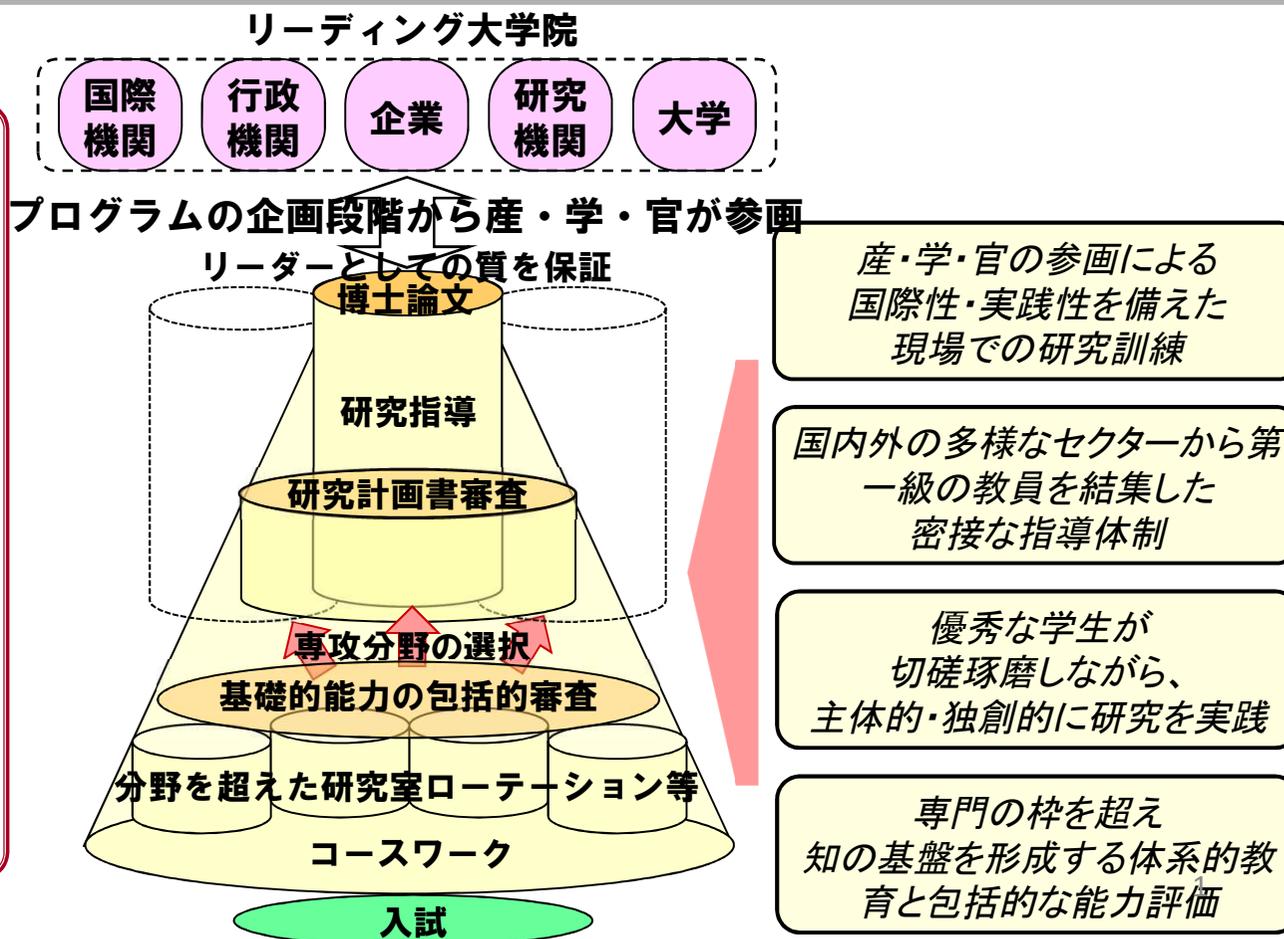
【求められるリーダー像】

広く産学官にわたって活躍し国際社会でリーダーシップを発揮する高度な人材

確固たる価値観に基づき、他者と協働しながら勇気を持ってグローバルに行動する力

自ら課題を発見し、仮説を構築し、持てる知識を駆使し独創的に課題に挑む力

高い専門性や国際性はもとより幅広い知識をもとに物事を俯瞰し本質を見抜く力

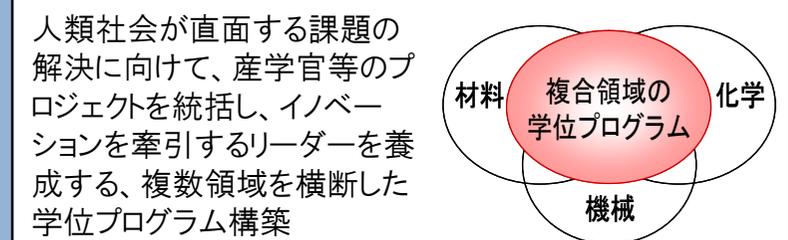
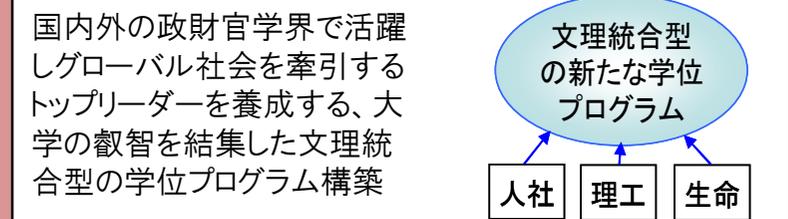


「博士課程教育リーディングプログラム」の選定数

養成すべき人材像、取り組むテーマが明確な博士課程の学位プログラムを構築しようとする構想を「オールラウンド型」「複合領域型」「オンリーワン型」の類型で最大7年間支援

類型と採択プログラム数

類型	平成23年度 (支援終了)	平成24年度	平成25年度	合計	
オールラウンド型	3	2	2	7	
複合領域型	環境	4	2	-	6
	生命健康	4	2	-	6
	物質	-	3	3	6
	情報	-	3	4	7
	多文化共生社会	-	3	3	6
	安全安心	1	2	-	3
	横断的テーマ	2	2	2	6
オンリーワン型	6	5	4	15	
合計	20	24	18	62	



プログラム数:62プログラム・33大学*

(うち、支援中のプログラムは、42プログラム・30大学*) (*共同実施機関含む。)

博士課程教育リーディングプログラム一覧(1)

支援期間	整理番号	機関名 (共同実施機関名)	プログラム名称
------	------	------------------	---------

■ オールラウンド型

H23-H29	A01	京都大学	京都大学大学院思修館
H23-H29	A02	大阪大学	超域イノベーション博士課程プログラム
H23-H29	A03	慶應義塾大学	超成熟社会発展のサイエンス
H24-H30	G01	東京工業大学	グローバルリーダー教育院
H24-H30	G02	名古屋大学	PhDプロフェッショナル登龍門
H25-H31	P01	東京大学	社会構想マネジメントを先導するグローバルリーダー養成プログラム
H25-H31	P02	九州大学	持続可能な社会を拓く決断科学大学院プログラム

■ 複合領域型－環境－

H23-H29	B01	東京大学	サステナビリティ学グローバルリーダー養成大学院プログラム
H23-H29	B02	東京工業大学	環境エネルギー協創教育院
H23-H29	B03	名古屋大学	グリーン自然科学国際教育研究プログラム
H23-H29	B04	慶應義塾大学	グローバル環境システムリーダープログラム
H24-H30	H01	東京農工大学	グリーン・クリーン食料生産を支える実践科学リーディング大学院の創設
H24-H30	H02	九州大学	グリーンアジア国際戦略プログラム

■ 複合領域型－生命健康－

H23-H29	C01	筑波大学	ヒューマンバイオロジー学位プログラム
H23-H29	C02	東京大学	ライフイノベーションを先導するリーダー養成プログラム
H23-H29	C03	東京工業大学	情報生命博士教育院

支援期間	整理番号	機関名 (共同実施機関名)	プログラム名称
------	------	------------------	---------

H23-H29	C04	大阪大学	生体統御ネットワーク医学教育プログラム
H24-H30	I01	京都大学	充実した健康長寿社会を築く総合医療開発リーダー育成プログラム
H24-H30	I02	熊本大学	グローバルな健康生命科学パイオニア養成プログラムHIGO

■ 複合領域型－物質－

H24-H30	J01	東京大学	統合物質科学リーダー養成プログラム
H24-H30	J02	大阪大学	インタラクティブ物質科学・カデットプログラム
H24-H30	J03	九州大学	分子システムデバイス国際研究リーダー養成および国際教育研究拠点形成
H25-H31	Q01	北海道大学	物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム
H25-H31	Q02	東北大学	マルチディメンジョン物質理工学リーダー養成プログラム
H25-H31	Q03	大阪府立大学 (大阪市立大学)	システム発想型物質科学リーダー養成学位プログラム

■ 複合領域型－情報－

H24-H30	K01	東京大学	ソーシャルICT グローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム
H24-H30	K02	京都大学	デザイン学大学院連携プログラム
H24-H30	K03	大阪大学	ヒューマンウェアイノベーション博士課程プログラム
H25-H31	R01	筑波大学	エンパワーメント情報学プログラム
H25-H31	R02	名古屋大学	実世界データ循環学リーダー人材養成プログラム
H25-H31	R03	豊橋技術科学大学	超大規模脳情報を高度に技術するブレイン情報アーキテクトの育成
H25-H31	R04	早稲田大学	実体情報学博士プログラム

参考: 博士課程教育リーディングプログラムパンフレット(日本学術振興会)

http://www.jsps.go.jp/j-hakasekatei/data/Program_for_Leading_Graduate_Schools_Pamphlet_Jp.pdf

博士課程教育リーディングプログラム一覧(2)

支援期間	整理番号	機関名 (共同実施機関名)	プログラム名称
------	------	------------------	---------

■ 複合領域型－多文化共生社会－

H24-H30	L01	金沢大学	文化資源マネージャー養成プログラム
H24-H30	L02	大阪大学	未来共生イノベーター博士課程プログラム
H24-H30	L03	同志社大学	グローバル・リソース・マネジメント
H25-H31	S01	東京大学	多文化共生・統合人間学プログラム
H25-H31	S02	名古屋大学	「ウェルビーイングinアジア」実現のための女性リーダー育成プログラム
H25-H31	S03	広島大学	たおやかで平和な共生社会創生プログラム

■ 複合領域型－安全安心－

H23-H29	D01	京都大学	グローバル生存学大学院連携プログラム
H24-H30	M01	東北大学	グローバル安全学トップリーダー育成プログラム
H24-H30	M02	高知県立大学 (千葉大学、東京医科歯科大学、兵庫県立大学、日本赤十字看護大学)	災害看護グローバルリーダー養成プログラム

■ 複合領域型－横断的テーマ－

H23-H29	E01	東京大学	フロンティア・リーディング大学院
H23-H29	E02	広島大学	放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム
H24-H30	N01	名古屋大学	フロンティア宇宙開拓リーダー養成プログラム
H24-H30	N02	早稲田大学	リーディング理工学博士プログラム
H25-H31	T01	東京大学	活力ある超高齢社会を共創するグローバル・リーダー養成プログラム
H25-H31	T02	お茶の水女子大学	「みがかずば」の精神に基づきイノベーションを創出し続ける理工系グローバルリーダーの育成

支援期間	整理番号	機関名 (共同実施機関名)	プログラム名称
------	------	------------------	---------

■ オンリーワン型

H23-H29	F01	北海道大学	One Healthに貢献する獣医学グローバルリーダー育成プログラム
H23-H29	F02	群馬大学	重粒子線医工学グローバルリーダー養成プログラム
H23-H29	F03	東京工業大学	グローバル原子力安全・セキュリティ・エージェント養成
H23-H29	F04	山梨大学	グリーンエネルギー変換工学
H23-H29	F05	名古屋大学	法制度設計・国際的制度移植専門家の養成プログラム
H23-H29	F06	兵庫県立大学	フロンティアサイエンスが拓く次世代ピコバイオロジー
H24-H30	O01	秋田大学	レアメタル等資源ニューフロンティアリーダー養成プログラム
H24-H30	O02	山形大学	フロンティア有機材料システム創成フレックス大学院
H24-H30	O03	千葉大学	免疫システム調節治療学推進リーダー養成プログラム
H24-H30	O04	東京大学	数物フロンティア・リーディング大学院
H24-H30	O05	長崎大学	熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー育成プログラム
H25-H31	U01	政策研究大学院大学	グローバル秩序変容時代のリーダー養成プログラム
H25-H31	U02	信州大学	ファイバーネットワークを先導するグローバルリーダーの養成
H25-H31	U03	滋賀医科大学	アジア非感染性疾患(NCD)超克プロジェクト
H25-H31	U04	京都大学	霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院

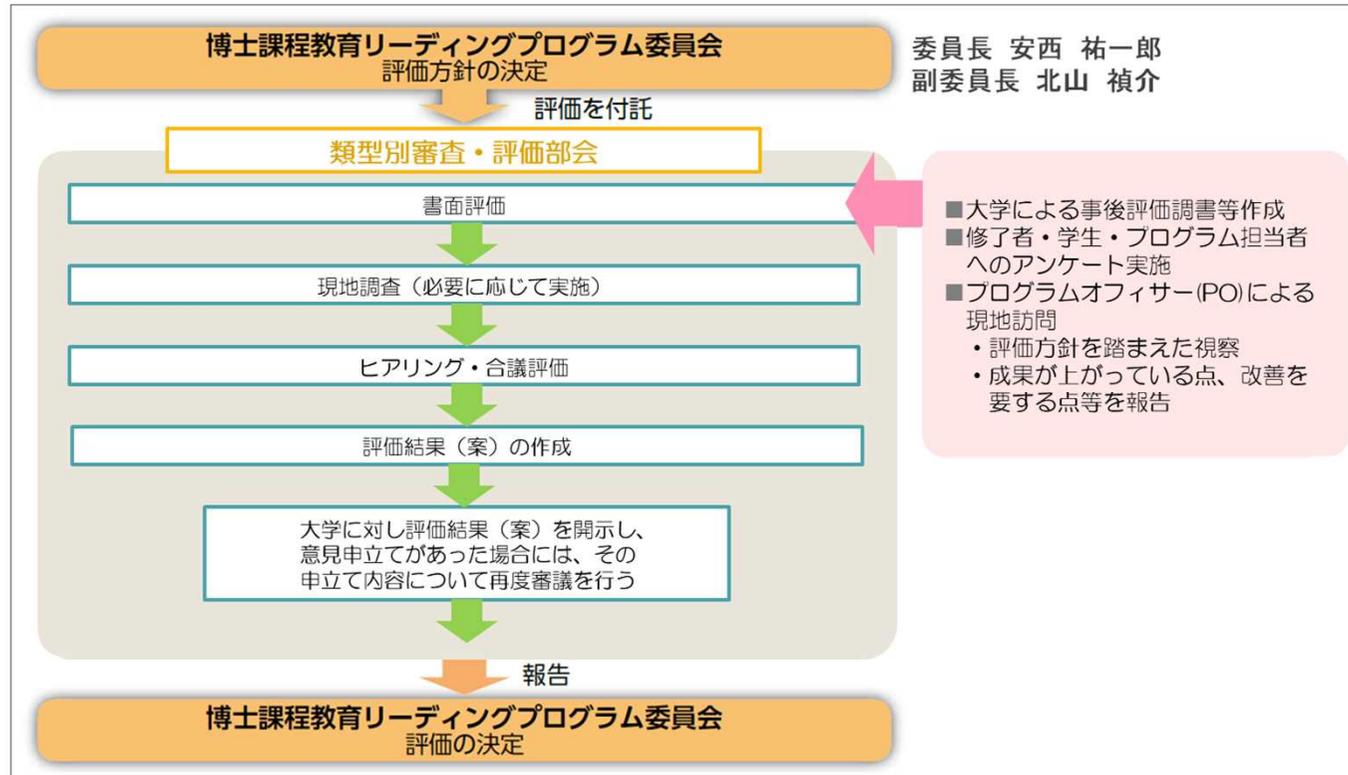
参考: 博士課程教育リーディングプログラムパンフレット(日本学術振興会)

http://www.jsps.go.jp/j-hakasekatei/data/Program_for_Leading_Graduate_Schools_Pamphlet_Jp.pdf

事後評価等について

事後評価スケジュール

事後評価手順



採択年度別 スケジュール

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
H23 採択	採択			中間 評価			事後 評価		
H24 採択		採択			中間 評価			事後 評価	
H25 採択			採択			中間 評価			事後 評価

中間評価は採択後4年目に実施
事後評価は採択後7年目に実施

平成24年度採択プログラム 事後評価結果①

事後評価の目的

各採択プログラムにおいて、中間評価結果を踏まえた対応が適切に行われ、本事業の目的が達成されたかについて評価するとともに、その結果を各大学に示し適切な助言を行うことにより、支援期間終了後の学位プログラムの定着等の大学院教育の水準の向上に資することを目的とする。また、各採択プログラムの成果等を明らかにし、社会に公表することにより、産学官民における博士号取得者の活躍を促進することを併せて目的とする。

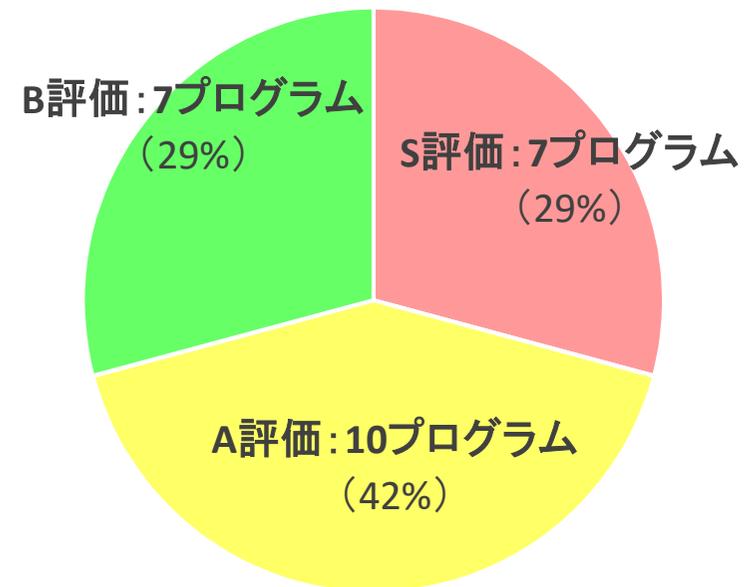
<事後評価結果(全24プログラム)>

S評価: 計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。

A評価: 計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。

B評価: 概ね計画に沿った取組が行われ、一部で十分な成果がまだ得られていない点もあるが、本事業の目的をある程度は達成できたと評価できる。

C評価: 計画に沿った取組が行われておらず、十分な成果が得られているとは言えないことから、本事業の目的を達成できなかったと評価する。



平成24年度採択プログラム 事後評価結果② 類型(テーマ)別の評価一覧

(単位:件)

区分	オールラウンド型	複合領域型(環境)	複合領域型(生命健康)	複合領域型(物質)	複合領域型(情報)	複合領域型(多文化共生社会)	複合領域型(安全安心)	複合領域型(横断的テーマ)	オンリーワン型	合計
S	1	-	1	2	1	-	-	1	1	7
A	-	1	-	1	2	2	-	1	3	10
B	1	1	1	-	-	1	2	-	1	7
C	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
合計	2	2	2	3	3	3	2	2	5	24

S評価: 計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。

A評価: 計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。

B評価: 概ね計画に沿った取組が行われ、一部で十分な成果がまだ得られていない点もあるが、本事業の目的をある程度は達成できたと評価できる。

C評価: 計画に沿った取組が行われておらず、十分な成果が得られているとは言えないことから、本事業の目的を達成できなかったと評価する。

平成24年度採択プログラム 事後評価結果③ 類型(テーマ)別の評価一覧

リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築

◆優れた取組や成果

- ✓ **【自主・自立性に富みグローバルに活躍する人材を養成するプログラムの確立】** 異分野科目や俯瞰講義等のコースワーク、学生の自主性・自発性を尊重した融合研究、長期海外派遣、企業等インターンシップ、コロキウム等により俯瞰力と高度の専門性を備えたリーダー養成プログラムを構築
- ✓ **【国内外機関との充実した連携による学位審査・実践教育】** 科目が英語で提供され、海外大学・企業への長期派遣が課されており、国内外のコンサルティング企業、外国人教員の副指導教員・企業出身メンターによる実践的かつ直接の指導等、確固たる連携体制学位審査・実践教育を実施
- ✓ **【文理融合教育によるリーダー養成の実現】** 学生1名に対し最大5名の教員・海外メンターによる指導体制の下、文理融合を目指したラボローテーションなどを実現、広範な知識と俯瞰力、国際性等を有するグローバルリーダーを育成

◆課題

- ✓ **【大学全体の取組としての位置付け】** 全学的な管理運営機構の関与が積極的ではなく、取組が学長等のリーダーシップに基づく大学院教育改革として十分に機能したか不明瞭であり、大学全体の教育改革の取組とどのような関係にあるかも判然としない
- ✓ **【研究指導体制の不備】** カリキュラムにおいて対象とする領域の一部において専門家である教員が経常的に配置されていないなど、広範かつ体系的な教育研究指導体制の構築が不十分
- ✓ **【従来の研究領域を超える研究指導】** 新たに文理融合型の学術分野を設定するも、個々の研究関連領域の境界を越えた博士学位論文が作成されたとは必ずしも言えず、従来の研究科の枠を超えた研究指導体制が不十分である

修了者の成長とキャリアパスの構築

◆優れた取組や成果

- ✓ **【異分野・産学交流による専門分野の枠を超えた人材育成】** 異なる専門領域や産業界との交流により視野の広がりや視点の高まりがみられ、活動の場が国内外のアカデミア・産業界等にまで広がり、「専門分野の枠を超えて全体を俯瞰し社会的課題の解決に導く高度な人材の育成」に成功
- ✓ **【学生のキャリアパスの多様化】** 国内外企業のオンサイトでの特別講義などの取組・工夫の成果として、修了生が産業界・アカデミア・行政等にバランスよく就職しているほか、海外企業・起業にも挑戦する者が出ている
- ✓ **【異分野融合研究による成果】** 異なる研究科の学生との融合研究の成果が、多くの国際的学術誌・学会において発表され融合分野の体系化への基礎を築くと同時に、学位論文においても融合領域における視点が加わるなど融合研究において培った成果が確認される
- ✓ **【優れた自主性の涵養】** 学生の自主性を育む仕掛けにより、異分野専攻の学生同士で共同研究テーマを立ち上げ、学年・分野を超えたネットワークで学生自主企画のシンポジウムを数十件実施、国際コンテストでも受賞

◆課題

- ✓ **【キャリアパスの多様性】** 修了者のアカデミア志向が顕著であり、グローバルに活躍する多様なキャリアパスの開発や指導体制が不十分
- ✓ **【学生確保の取組】** 学生確保に向けた取り組みが不十分であり、日本人学生を十分に引き付けるまでには至らず、分野における日本国内の教育研究・人材育成拠点としての役割を十分に果たせていない
- ✓ **【養成する人材像の意識づけ】** プログラム学生に対しキャリアパスのイメージを提示することに関し、学生の自立・自主性尊重の観点から否定的であり、学生のキャリアパス構築に係る取組が不十分

事業の定着・発展

◆優れた取組や成果

- ✓ **【事業継続に向けた環境等の整備】** プログラムにおける取組について、そのレガシーを引き継ぐ機構の学内設置や、プログラムとしてのテキストを刊行するなど、学内外で継承されるよう整理している
- ✓ **【支援期間終了後の継続に向けた具体的な取組】** 学長主導によるプログラムを中心とした大学院組織の再編、行政・企業との連携によるセミナー・国内外インターンシップ・学生主導の企画提案型・公募型インターンシップなどの事業の支援期間終了後の定着・発展を予定、プログラム専任教員の配置・留学生への奨励金支給・カリキュラムに基づく研究費用等予算面の具体的な計画など、事業の定着・発展に本格的に取組
- ✓ **【大学全体の将来計画への明確な位置付け】** カリキュラムを学部学生にまで広げる計画があり、大学全体の将来像の中に位置付けた上で支援期間終了後の事業継続を準備
- ✓ **【全学の教育改革への波及】** 本事業で取り組んだ5年一貫教育や、副指導教員制度・学生自己評価ポートフォリオ等の取組成果を全学的システムとして導入、大学全体の改革に展開

◆課題

- ✓ **【事業の継続・発展策の実効性】** 横断型学位プログラムを学内に展開するための学内機構を創設、全学的な支援の下で取組の組織的継承と財政的支援を行う体制を提示しているが、準備されている予算額の点、既存研究科中心の研究指導体制を維持する点等から、今後の展開に疑問
- ✓ **【大学全体の教育改革における位置付け】** 学内の他の博士課程教育リーディングプログラムとの合同による部局横断的な大学院教育プログラムを統括する学内横断組織の創設、研究科における固定的教育スタッフの確保等が図られているものの、大学全体の教育改革の取組とどのような関係にあるか判然としない
- ✓ **【経済的支援の継続】** 支援期間終了後は学生に対する直接的な経済的支援を打ち切り、学生の自助努力に委ねる方針であるが、学生の獲得・入学後のインターンシップ派遣・海外交流等の大きな支障となることが想定され、事業の定着・発展に懸念

フォローアップについて

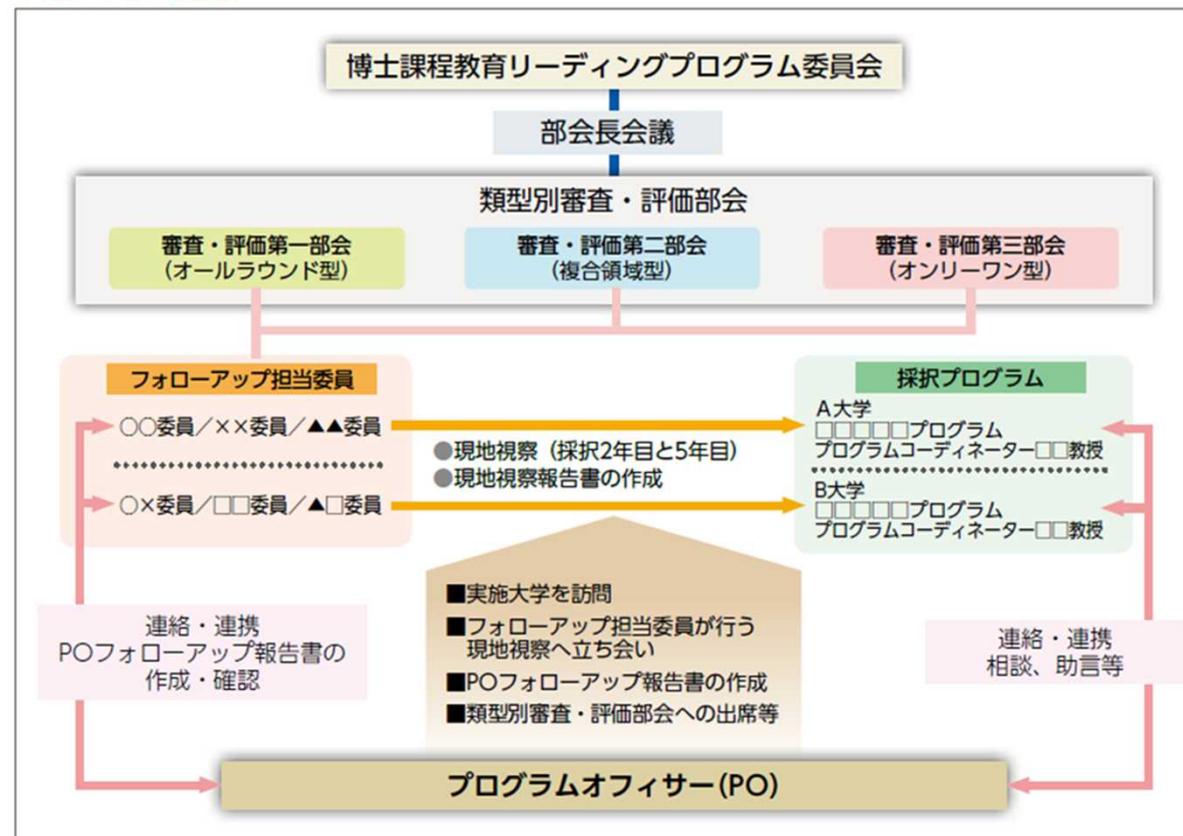
博士課程教育リーディングプログラムではフォローアップ担当委員（原則3名）とプログラムオフィサーによるフォローアップ（大学を訪問し、適正に実施されているかどうかを把握し、必要に応じて指導・助言）を行っている。中間評価の翌年度に中間評価結果を踏まえたフォローアップを行う。

スケジュール

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目
	現地視察		(中間評価)	現地視察		(事後評価)

概念図

フォローアップ概念図

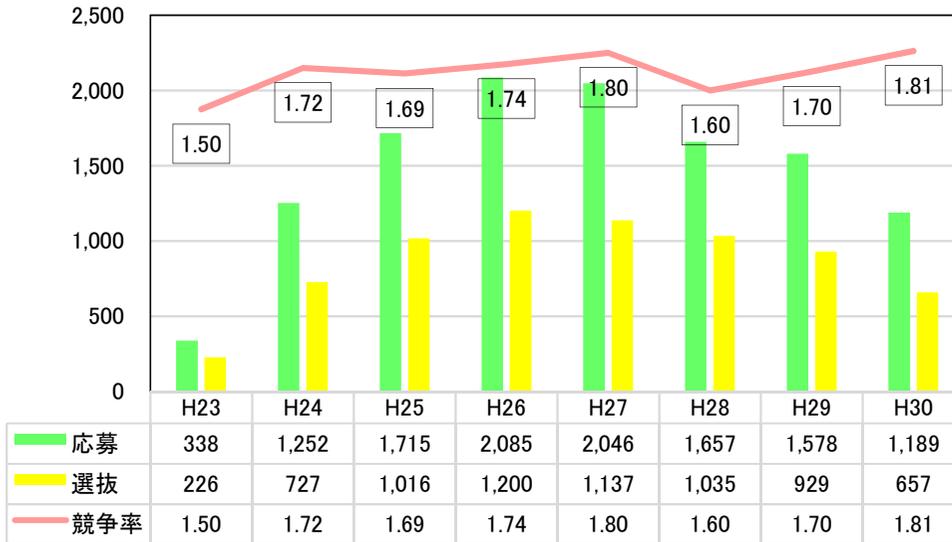


プログラムの実施状況

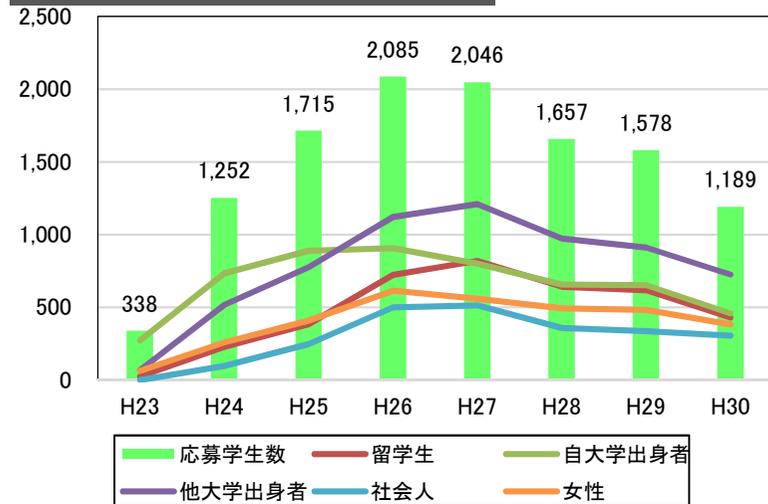
プログラム参加学生の応募・選抜状況

(単位:人)

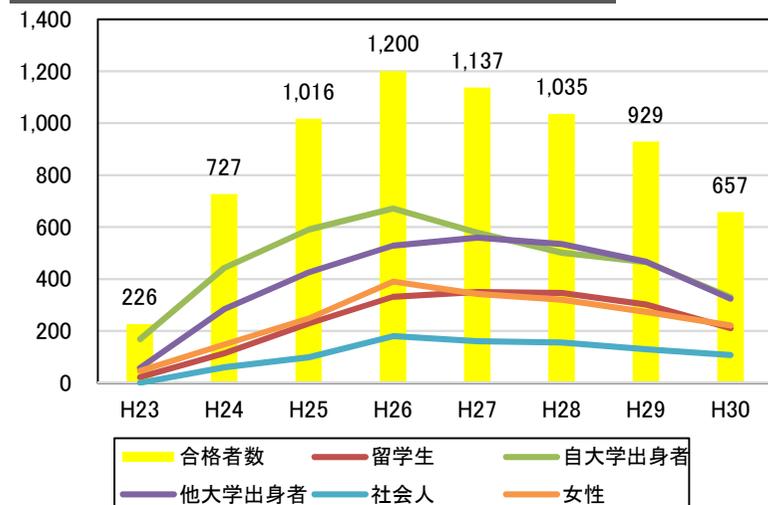
応募・選抜



① 応募学生数と内訳



② 選抜された学生数と内訳



- ✓ 平成30年度応募者総数は1,189人、選抜された学生数は657人。
- ✓ 学生選抜に係る競争率は、概ね1.6倍～1.8倍程度の水準で推移。
- ✓ 応募者数・選抜数ともに平成26年度がピークで、その後は減少傾向。
- ✓ 選抜された学生の内訳では、自大学出身者と他大学出身者がそれぞれ同数程度。

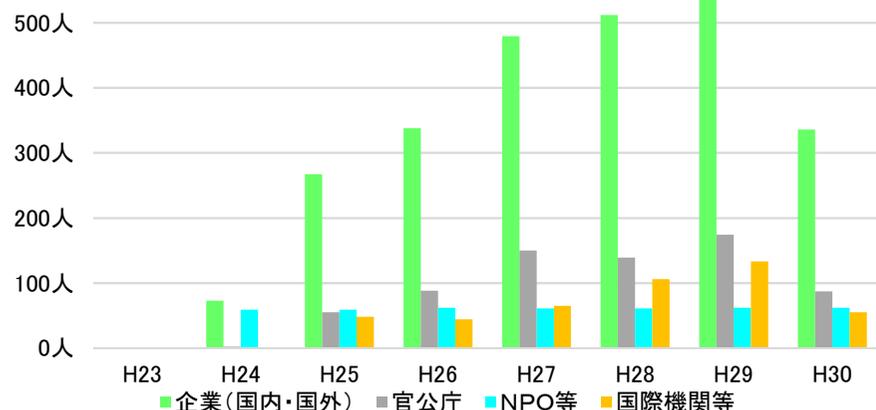
※参考:平成26年度に全プログラムが募集を開始。
参加学生数は6,590人(平成30年度末現在)

※社会人学生:職に就いている者、企業等を退職した者、主婦
※折れ線グラフは、応募学生数又は選抜学生数の属性(留学生、社会人等)ごとの経年変化を表したものである
出典:平成30年度実施状況調査(文部科学省)を基に作成

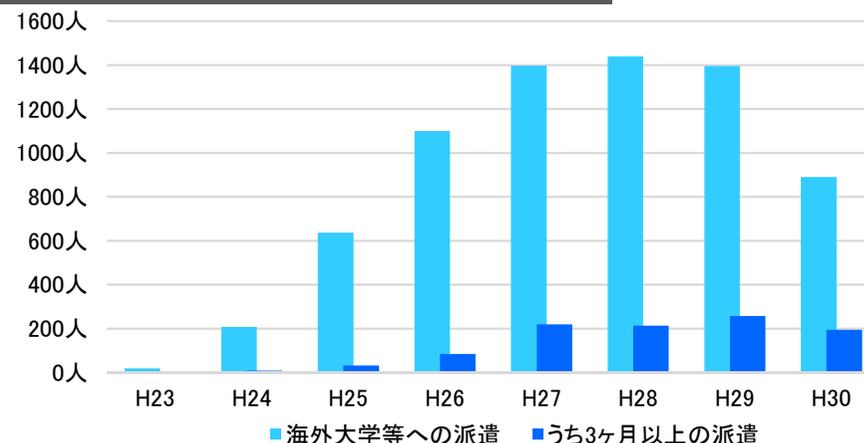
教育活動と企業との連携状況

- ✓ 平成29年度までの間、企業等との連携による取組の規模は年々増加。
- ✓ 他方、平成30年度以降は全体の件数、プログラム当たり件数ともに減少。平成23年度採択事業の支援期間が平成29年度末で終了したこと等による影響が考えられる。

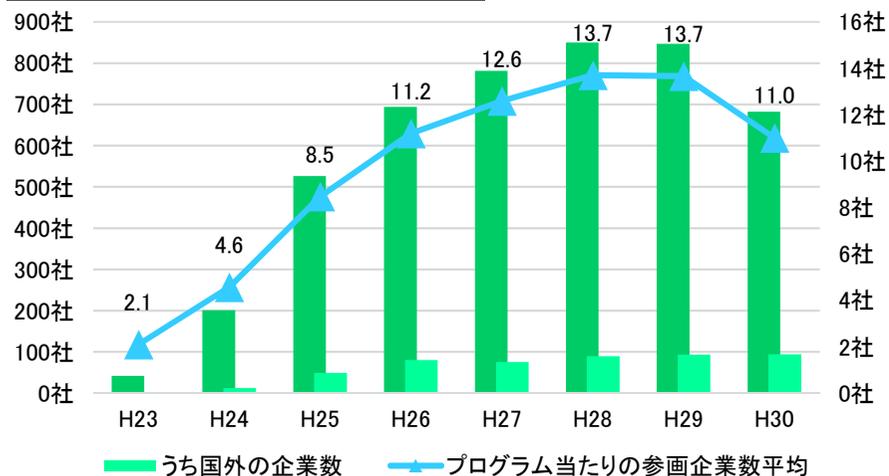
インターンシップ派遣学生数



海外大学等への派遣学生数

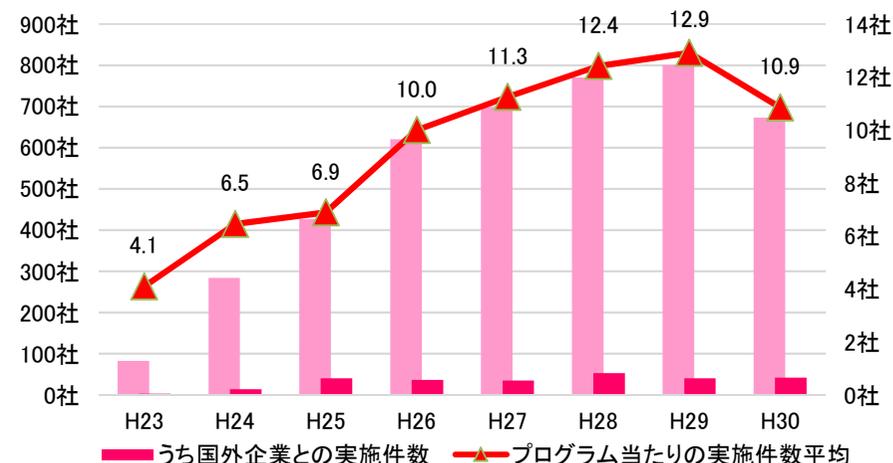


プログラム参画企業数



※「参画」とは、個人としてではなく、企業・機関としての協力の下、プログラムに関わりがあった場合のことをいう。

プログラムにおける企業との共同研究実施数



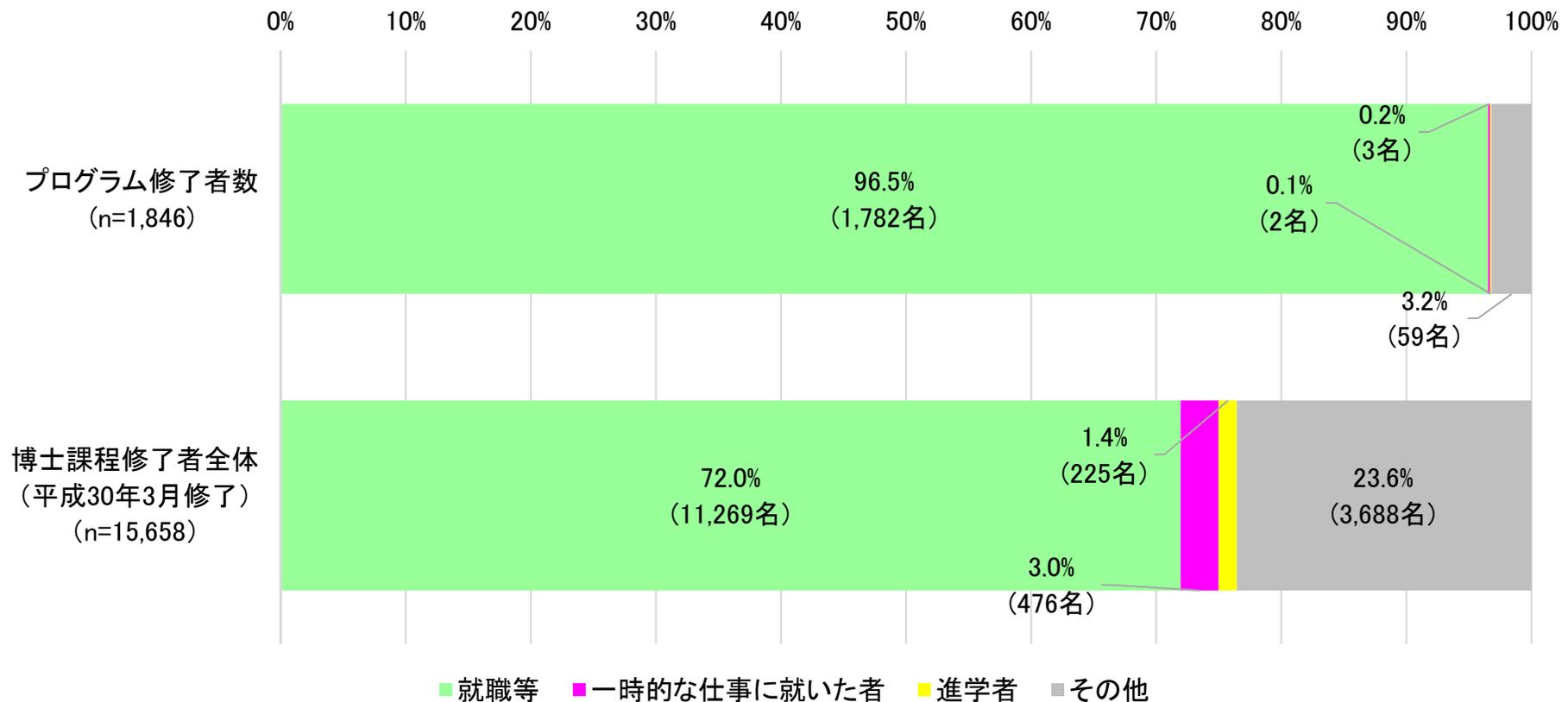
出典：平成30年度実施状況調査(文部科学省)を基に作成

修了者の就職状況

修了者の進路状況(プログラム修了者、博士全体)

○平成30年度末までに1,846名(※)が修了。うち、全体の96.5%にあたる1,782名が就職。
就職者の割合は、博士課程修了者全体の割合に比べ高い傾向にある。

(※)平成25年度:1名、平成26年度:97名、平成27年度:206名、平成28年度:385名、平成29年度:583名、平成30年度:619名



※学校基本調査の結果には、いわゆる「満期退学者」も含まれる。

※学校基本調査の「一時的な仕事に就いた者」は、臨時的な収入を得るために仕事に就いた者であり、雇用の期間が1年未満又は雇用期間の長さに関わらず短時間勤務の者として整理。

※プログラム修了者のうち、「就職者」には起業(3名)も含まれる。

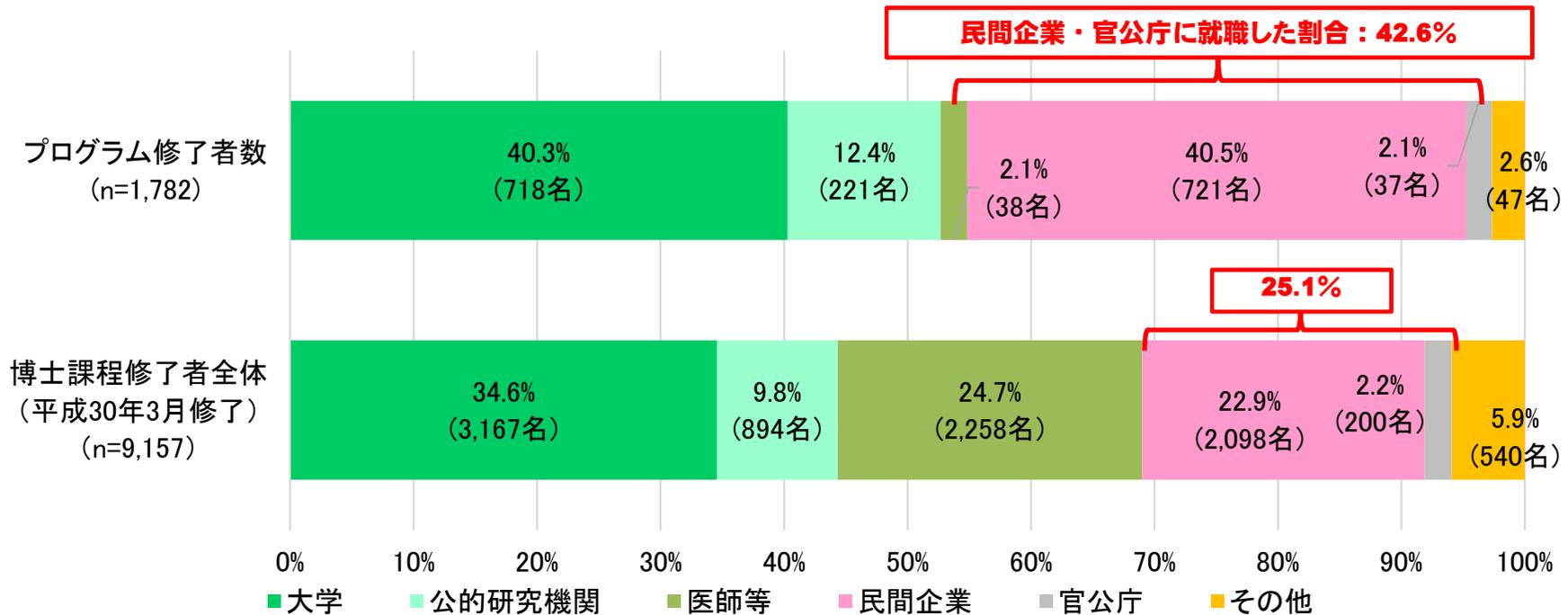
※ポストドクターについては、全て「就職者」に計上。

※「その他」については、就職活動を行っている者等。

出典: プログラム修了者は平成30年度実施状況調査(文部科学省)
博士課程修了者(全体)については平成30年度学校基本統計

就職者の就職状況(プログラム修了者、博士全体)

○就職者(プログラム修了生)の4割超が民間企業・官公庁に就職。
国内外の大学・公的研究機関・民間企業・官公庁等の多様なセクションで活躍。



※大学院活動状況調査については、現職を継続する社会人を除く。

※大学院活動状況調査の結果には、いわゆる「満期退学者」も含まれる。

※大学院活動状況調査については、ポストドクター1,762名の所属機関種が特定できないため、ポストドクター等の雇用・進路に関する調査(2018年1月 科学技術・学術政策研究所)のポストドクター等の所属機関種(大学:77.1%、それ以外:22.9%)に基づき、大学と公的研究機関に按分して計上。

出典：プログラム修了者のうち就職した者は平成30年度実施状況調査(文部科学省)
博士課程全体の就職者は平成28年度大学院活動状況調査

【主な就職先】

(大学・公的研究機関)

北海道大学、東北大学、筑波大学、千葉大学、東京大学、東京工業大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学、慶應義塾大学、早稲田大学、スタンフォード大学、オックスフォード大学、ロンドン大学、マサチューセッツ工科大学、カリフォルニア大学、コロンビア大学、ケンブリッジ大学、自然科学研究機構、高エネルギー加速器研究機構、理化学研究所、産業技術総合研究所、新エネルギー・産業技術総合開発機構、NASA、NIH、マックス・プランク研究所、CNRS 等

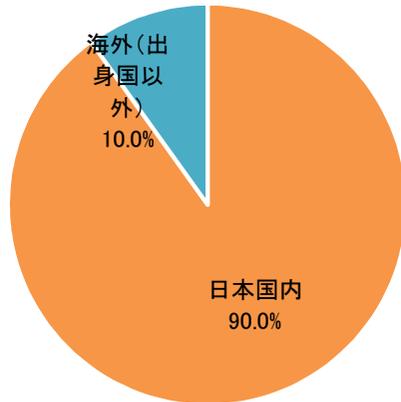
(企業・官公庁) アステラス製薬、住友化学、第一三共製薬、中外製薬、パナソニック、日立製作所、三菱電機、文部科学省、特許庁 等

(国際機関) アフリカ開発銀行(AfDB)、国連食糧農業機関(FAO)、世界保健機関(WHO)、世界知的所有権機関(WIPO)

プログラム修了者の主たる勤務地

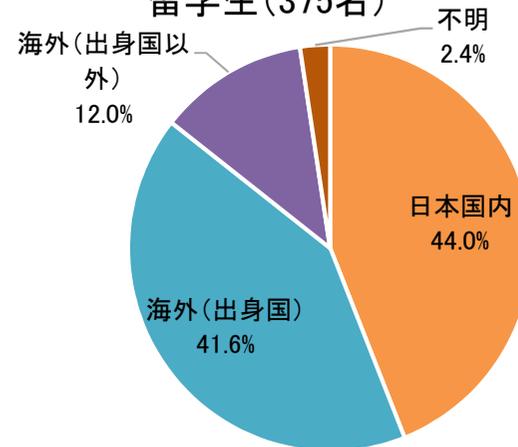
平成25～30年度修了者(1,782人)

日本人学生(1,407名)



■ 日本国内 ■ 海外(出身国以外)

留学生(375名)

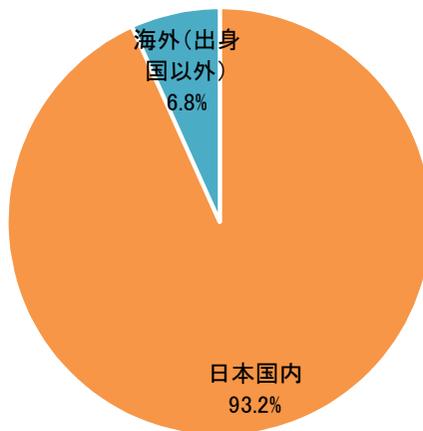


■ 日本国内 ■ 海外(出身国) ■ 海外(出身国以外) ■ 不明

- ✓ 日本人1,407名のうち、10.0%は国外で就職
- ✓ 留学生 375人のうち、44.0%は国内で就職

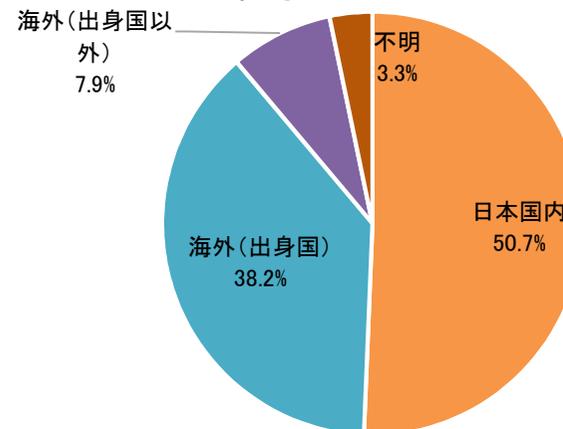
平成30年度修了者(581人)

日本人学生(429名)



■ 日本国内 ■ 海外(出身国以外)

留学生(152名)



■ 日本国内 ■ 海外(出身国) ■ 海外(出身国以外) ■ 不明

- ✓ 日本人429人のうち、6.8%は国外で就職
- ✓ 留学生152人のうち、50.7%は国内で就職

プログラム修了者の産業界への就職状況(平成25年度～平成30年度)

業界	就職者数	社名
化学工業、石油・石炭製品製造業	121	DIC, JSR, P&Gイノベーション合同会社, カネカ, グラクソ・スミスクライン, クラレ, ケイ・アイ研究所, スリーエムジャパン, ツムラ, ノバルティスファーマ, ライオン, 旭化成, 旭化成ファーマ, 協和化学工業, 協和発酵キリン, 三井化学, 三井化学アグロ, 三井化学分析センター, 三菱ケミカル, 住友化学, 住友精化, 住友理工, 昭和電工, 信越化学工業, 積水化学工業, 太陽ホールディングス, 大阪ソーダ, 帝人, 東洋合成工業, 日揮触媒化成, 日産化学工業, 富士フイルム, 出光興産, クレハ, ダウ・ケミカル日本, LG化学, 日亜化学工業 等
製薬会社	79	GEヘルスケア・ジャパン株式会社, アステラス製薬, エーザイ, サーマフィッシャーサイエンティフィック, 塩野義製薬, 佐藤製薬, 大塚製薬, 大日本住友製薬, 第一三共製薬, 中外製薬, 田辺三菱製薬, 武田薬品工業, ロート製薬, 湧永製薬, 沢井製薬, 日本メジフィジックス
電気・情報通信機械器具製造業	75	NEC, NEC中央研究所, アジレント・テクノロジー, コニカミノルタ, シャープ, テブコシステムズ, ニコン, パナソニック, 三菱電機, 東芝, 東芝セミコンダクター&ストレージ社, 日立製作所, ソニー, リコー, 昭和電工
その他の専門・技術サービス業	61	CarabaoCenterNationalHeadquartersandGenePool(フィリピン), ChinaPatentAgent(H.K.)LTD.(中国), EMT-INRS, EPSアソシエイト, Planning&DevelopmentWorkshop(インドネシア), TCO2Co.Ltd, TDSEテクノデータサイエンス・エンジニアリング, アーサー・D・リトル・ジャパン, アイ・エム・エス・ジャパン, アスピオファーマ, エイムネクスト, ソフトウェアクレイドル, デロイトトーマツコンサルティング合同会社, ネオレックス, ポストンコンサルティング, マッキンゼー・アンド・カンパニー, メイテックフィルダーズ, モバイルファクトリー, ユーグレナ, リクルートコミュニケーション, リクルートスタッフィング, 学校法人滋慶学園, 株式会社テクノスジャパン, 株式会社日本入試センター, 先端力学シミュレーション研究所, 東洋インキSCホールディングス, 東洋産業, 日立ソリューションズ, 三菱総研, アフリカ開発銀行 等
情報通信業	65	C.T.CoLimited, IHIエスキューブ, KDDI, NTTデータ, NTTデータ数理システム, PreferredNetworks, アトラエ, ウェザーニューズ, オムロンソフトフェア(中国), ナビタイムジャパン, ワークスアプリケーションズ, 伊藤忠テクノソリューションズ, 楽天, 信光社, 日本マイクロソフト, 日本電信電話, 富士通研究所, インターネットイニシアティブ, ソフトバンク, ドワンゴ, Microsoft, Huiyan Technology 等
電子部品・デバイス・電子回路製造業	68	FDK, JOLED, Qualcomm(アメリカ), デンソー, モルフォ, 旭化成エレクトロニクス, 西進商事, 東京エレクトロン, 日本アイ・ビー・エム, 日本ケミコン, 日立化成, 富士電機, maxon motor ag(スイス), TDK, シスコシステムズ, 村田製作所, ファーウェイ・ジャパン 等
その他製造業	53	Bosch(ドイツ), サンスター, ダイセキ, テルモ, 花王, 資生堂, 星光PMC, 島津製作所, 日本農薬, 堀場製作所, 三菱重工業, ヤマハ 等
鉄鋼業、非鉄金属・金属製品製造業	20	DOWAホールディングス, JX金属, Outotec(フィンランド), UACJ, オーエスジー, 古河電気工業, 住友重機械工業, 住友電気工業, 日星電気, 日立金属, JFEスチール, 神戸製鋼所, ジェイテクト, 三菱マテリアル, 日本製鉄, JX金属
輸送用機械器具製造業	22	キャタラー, トヨタ自動車, ブリジストン, マツダ, 本田技術研究所, 川崎重工業航空宇宙カンパニー, 日産自動車, 日野自動車, 三井E&S造船
はん用・生産用・業務用機械器具製造業	20	DMG森精機, キーエンス, サンスター技研, ファナック, 前川製作所, ヤンマー, 横河電機, ミツトヨ
建設業	12	アルメックVPI, 構造計画研究所, 水ing, 竹中工務店, Riofil Corporation Inc, 五洋建設, 大成建設
金融業	12	PwCあらた有限責任監査法人, みずほ第一フィナンシャルテクノロジー, 三菱UFJモルガン・スタンレー証券, 三菱UFJリサーチ&コンサルティング, 有限責任監査法人トーマツ, アント・フィナンシャルサービスグループ, ドイツ証券, 大和証券, Goldman Sachs
繊維工業	7	東レ, 日東紡績
複合サービス事業	7	コアコンセプト・テクノロジー, デジタルプロセス, 公益財団法人鉄道総合技術研究所, 日本工営, リバネス 等
食料品・飲料・たばこ・飼料製造業	15	伊藤忠飼料, 日本たばこ産業, 本部三慶, 味の素, カゴメ
医療業、保健衛生	18	シスメックス, 野生鳥獣対策連携センター, メディエンス, コスモステクニカルセンター, ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ 等
電気・ガス・熱供給・水道業	5	レノバ, 自然電力, Looop, 東京電力
卸売業	4	丸紅, 三井物産
不動産取引・賃貸・管理業	4	Country Garden Holdings Company Limited(中国)
保険業	2	アクサ生命保険, 損害保険料率算出機構
その他	51	Ispace, アップ, 自律制御システム研究所, 東京化学同人, 新日本科学PPD, パレオ・ラボ, 有限会社学而会 等
総計	721	

学生の諸活動(例)

学生の諸活動(例)①省庁・企業等主催イベントでの受賞等

Monozukuri Hardware Cup 2019 で 3rd Place Award を受賞

【概要】

平成31年3月13日

Hack Osaka 2019で行われたMonozukuri Hardware Cup 2019 に、国内で8つのスタートアップ企業の一つとして自身が同僚と一緒に立ち上げたXELA Robotics社が選出された。会社の代表として大会に参加し、開発したロボットハンドやグリッパ用センサーの実演発表を行い、3位入賞を果たした。

【受賞者】

モテイトブラドノ 早稲田大学
(創造理工学研究科 L5)
《実体情報学博士プログラム》
ほか4名



World Robot Summit 2018第3位および人工知能学会賞受賞

【概要】

平成30年10月21日

2018年10月に行われたWorld Robot Challenge (WRC) 2018 パートナーロボットチャレンジ(リアルスペース)において参加10ヶ国14チーム中 3位の成績を残し、人工知能学会賞を受賞した。この競技は、日常生活においてロボットが人間を支援するための基礎的スキルを競うものである。本チームでは、音声によって指示された物体を認識し持ってくるというタスクで高いパフォーマンスを見せた。現在は、2020年に行われるWRCに向けてさらなる開発を行っている。

【受賞者】

松崎成道 豊橋技術科学大学
(情報・知能工学専攻 M1)
眞野千輝 豊橋技術科学大学
(情報・知能工学専攻 M1)
《超大規模脳情報を高度に技術する
ブレイン情報アーキテクトの育成》 他4名

【競技の様子】



Hult Prize Tokyo Tech 2018で優勝

【概要】

平成30年12月8日

世界的に注目されている学生向けビジネスコンテストの1つ、「ハルト・プライズ」のオンキャンパス大会が東工大で初めて開催され、今年のテーマ「若者の失業—10年以内に10,000名の若者に有意義な仕事を提供するアイデア—」を解決するスタートアップのアイデアを競い、参加した17チームの中で優勝した。東工大代表として、2019年4月に開催される地域別決勝ラウンド(オーストラリア・メルボルン)に進出することも決定した。

【受賞チーム】

ITHE 東京工業大学
シュパルトフ・ペータ (情報理工学院 情報工学系 M1)
永田綾乃 (工学院 機械系 D2)
甲斐康平 (情報理工学院 情報工学系 D2)
赤木茅 (情報理工学院 情報工学系 D2)
《グローバルリーダー大学院》



第8回 ロボット大賞 で国土交通大臣賞受賞

【概要】

平成30年10月17日

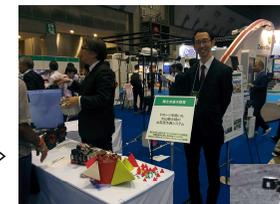
火山噴火時の降灰とその後の降雨によって発生する土石流は、甚大な被害をもたらすが、火山噴火時には火口周辺に立入制限区域が設定されるため、必要なデータ取得ができず、精度の高い土石流の発生予測は困難であった。受賞システムは、ドローンにより火口周辺のデータを取得し、土石流の発生予測の精度を向上させた。この内、地表の火山堆積物を直接採取する「ドローン吊下型土砂サンプリングデバイス」と地表における水の浸透性を確認する「ドローン吊下型表面流確認デバイス」の研究開発を担当した。前者については、製品化されている。

【受賞者】

谷島諒丞 東北大学
(工学研究科D3)
《グローバル安全学トップリーダー育成プログラム》

【受賞題目】

ドローンを用いた火山噴火時の土石流予測システム



学生の諸活動(例)①省庁・企業等主催イベントでの受賞等

第9回 ビジネス創造コンテストで企業特別賞を受賞

平成31年1月10日

【概要】

一般財団法人品川ビジネスクラブが主催した「第9回 ビジネス創造コンテスト」において、応募総数191件を勝ち抜き、企業特別賞を受賞した。このコンテストは、幅広い視点から様々な社会課題を解決するためのアイデアを募り、事業化を支援するコンテストで、「新規性」「実現性」「市場性」を総合的に審査し決定される。発表テーマの教材データベース「E commons」は、各教員・講師が作成する自作教材をデータベース化し、互いに改良し合うことができるサイトで、すでに稼働し始めている。

【受賞者】

藪中孝太郎 大阪大学
(法学研究科 D3)
《未来共生イノベーター博士課程プログラム》

【題目】

みんなで作る教材データベース



第10回ビジネスプランコンテストで フューチャーベンチャーキャピタル賞・優秀賞を受賞

平成30年8月1日

【概要】

大阪府が、社会課題・ニーズを独自の視点で的確に捉えたビジネスプランを発掘する場として開催した第10回ビジネスプランコンテストにおいて、フューチャーベンチャーキャピタル賞・優秀賞を受賞した。過酷な労働環境、多様化する教育ニーズ、著作権法への配慮という難しい状況の中で、各教員・講師が作成する自作教材(問題・資料・議題等)を、互いに改良し合うことができる共有地(知)の創出するという試みが評価された。

【受賞者】

藪中孝太郎 大阪大学
(法学研究科 D3)
《未来共生イノベーター博士課程プログラム》

【題目】

教育関係者向け教材共有サイト
「E commons」の開発・運用



第15回みたかビジネスコンテストで優秀賞を受賞

平成30年11月22日

【概要】

株式会社まちづくり三鷹が起業プラン発表の機会や事業の成長・実現を支援することを目的として開催した第15回みたかビジネスコンテストにおいて、優秀賞を受賞した。日本全国で活躍する教育者の知恵を結集し、多様性のある豊富で良質な教材データベース「E commons」を共に作り上げていくことで、家庭の資金力にかかわらず子どもたちが必要な教材にアクセスできる社会の実現を目指すという理念が高い評価を受けた。

【受賞者】

藪中孝太郎 大阪大学
(法学研究科 D3)
《未来共生イノベーター博士課程プログラム》

【題目】

教育者向け教材共有サイト
「E commons」の開発・運用



第20回キャンパスベンチャーグランプリ大阪大会でCVG大阪最優秀、 第15回キャンパスベンチャーグランプリ全国大会で教育審査委員賞・TOMODACHI賞を受賞

平成30年12月10日

【概要】

大学、大学院、専門学校などの学生が新商品・新事業のアイデア・ビジネスプランを競い合い、課題発見・解決型人材の育成を目的とする第20回キャンパスベンチャーズグランプリ(CVG)大阪大会において、CVG大阪最優秀賞を受賞した。また、第15回キャンパスベンチャーグランプリ(CVG)全国大会では教育審査委員賞・TOMODACHI賞を受賞した。教育現場で必要な教材を共有・再利用することで、教育格差や教員の過酷な労働環境を改善できると考え、試験問題の分析をもとに、利用頻度が高く現場の教員が必要と感じる問題をデータベース化し、問題作成システムと融合させたコミュニティサイトの事業化を進めていることが評価された。

【受賞者】

藪中孝太郎 大阪大学
(法学研究科 D3)
《未来共生イノベーター博士課程プログラム》

【題目】

みんなで作る教材データベース



学生の諸活動(例)②個人の業績の受賞、学会等での受賞

国際シンポジウム(TPFC2019)でNature誌より Best Poster Prizeを受賞

平成31年2月20日

【概要】

東京大学物性研究所で行われたトポロジカル物質の国際シンポジウム(TPFC2019)にてポスター発表を行い、Nature誌よりBest Poster Prizeを受賞した。高圧合成法により作製した新規磁性リン化合物において、磁場制御可能なトポロジカル転移に伴う巨大な創発磁場が生じている可能性を示した研究が高く評価された。今回Nature Poster Prizeを受賞したのは、ポスドクや博士学生等を含む全74発表中3件で、そのうち修士学生の受賞者はメイヨー氏のみであった。

【受賞者】

メイヨー アレックス浩 東京大学
(工学系研究科物理工学専攻 M2)
《統合物質科学リーダー育成プログラム》



【発表タイトル】

"Band-tuning-induced giant topological Hall effect in magnetic semimetal α -EuP3"

第22回 RADIOISOTOPES誌論文奨励賞受賞

平成30年7月5日

【概要】

寺林氏が第一著者を務める学術論文[RADIOISOTOPES, 67(3), 85-91 (2018)]が、高く評価され、公益社団法人アイソトープ協会RADIOISOTOPES誌第22回論文奨励賞を受賞した。本論文は、放射性炭素分析装置開発に関する産学共同研究の成果の一部をまとめたものであり、中赤外レーザーを用いた高感度レーザー吸収分光法に着目し、生体試料分析に特化した革新的な放射性炭素分析法の開発に成功した。本成果は、薬学・医学・農学など様々な領域の発展に貢献する非常に重要なものである。

【受賞者】

寺林稜平 名古屋大学
(工学研究科エネルギー理工学専攻 D2)
《PhDプロフェッショナル登竜門》



【発表タイトル】

高感度レーザー分光に基づく生体試料中放射性炭素同位体分析システムの開発

ACM SIGCHI 2019において Best Paper Honourable Mention Awardを受賞

平成31年3月15日

【概要】

ACMが開催する国際学会SIGCHI Conference on Human Factors in Computing Systems 2019において、西田氏が筆頭著者を務めた論文がBest Paper Honourable Mention Awardを受賞した。この論文は、小児の身体的体験を再現する装着型VRデバイスを提案したもので、保育士などが小児についてより本質的に理解することの可能性を示した。ACM SIGCHIは、Human-Computer Interaction分野における世界最大の国際学会で、今年で37回目の開催となる。本賞は、約3000件の論文投稿の中から2回のレビューを経て条件付き採択され(23%)た後、上位4%に位置する論文に与えられた。

【受賞者】

西田 淳、高嶋 光、佐藤 綱祐 筑波大学
(グローバル教育院一貫制博士課程5年)
《エンパワーメント情報学プログラム》他 2名



【論文タイトル】

Egocentric Smaller-person Experience through a Change in Visual Perspective

国際ボランティア学会で隅谷三喜男賞を受賞

平成31年2月16日

【概要】

国際ボランティア学会では、ボランティア学研究およびボランティア活動の発展を期して、研究を奨励する隅谷三喜男賞と、実践を奨励する村井吉敬賞を設けている。『ボランティア学研究』18号に掲載された小川氏の論文は、国際ボランティア学会において高い評価を受け、2018年度の隅谷三喜男賞を受賞した。本論文は、プログラム3年目の必修科目である「海外インターンシップ」にて、地域NGOで実施したインターンシップの経験を基に執筆されたものである。

【受賞者】

小川未空 大阪大学
(人間科学研究科 D3)
《未来共生イノベーター博士課程プログラム》

【発表タイトル】

学校はHIV/AIDSの「社会的ワクチン」になりうるか—ケニア農村部における若年女性の事例—



学生の諸活動(例)②個人の業績の受賞、学会等での受賞

国際会議Carbon 2018 (Spain)でKeynote Lectureに選出

平成30年7月2日

【概要】

自動車における摩耗は、故障や事故を引き起こすため、安全・安心社会の実現にとって最重要課題である。近年、分子動力学法による摩耗シミュレーションに注目が集まっているが、化学反応が扱えない、計算規模が小さいという欠点のため、摩耗現象までは扱えない問題があった。そこで、化学反応を扱えるスーパーコンピュータ用の超大規模シミュレータの開発により「化学摩耗」と「機械摩耗」の解明を可能とし、世界に先駆けて化学摩耗と機械摩耗を原子レベルで制御した超低摩耗材料の設計の可能性を示した。

【受賞者】

Yang Wang 東北大学
(工学研究科D3)

《グローバル安全学トップリーダー育成プログラム》



【発表タイトル】

“A Molecular Dynamics Study on the Tribological Properties of Diamond-like Carbon in Hydrogen Gas Environment”

Forbes Japan 30 Under 30でForbes Japan 30 Under 30 Healthcare & Science部門に選出

平成30年8月25日

【概要】

西田氏が、Forbes JAPANが開催する「世界を変える30歳未満の日本人30人(30 UNDER 30)」に、ヘルスケア & サイエンス部門から選出された。「30 UNDER 30」は、各界で活躍する30歳未満のイノベーターを表彰する「アート」「エンターテインメント & スポーツ」「ビジネス」「ソーシャルアントレプレナー」「ヘルスケア & サイエンス」の5つのカテゴリーで計30人の「次代を担う若者」を選出するもので、Forbes JAPANでは初の企画である。平成30年8月25日発売のForbes Japan(雑誌)に特集記事が掲載され、Forbes CEO Conference 2018に出席した。

【受賞者】

西田 惇 筑波大学
(グローバル教育院一貫制博士課程5年)
《エンパワーメント情報学プログラム》



筆頭著者論文がScientific Reportsに掲載

平成31年3月1日

【概要】

英国科学誌「Scientific Reports」オンライン版に掲載。室温で作製した鉄スズ磁石の微結晶薄膜が磁場を電気的に検出する磁気センサーとして利用可能であることを実証した。また、本センサーは、従来困難であったフレキシブルなプラスチック上に作製することも可能で、曲げた状態でも正常に動作することを実証した。今後、磁石の性質を活用した新型磁気センサー開発の進展が期待される。

【受賞者】

佐竹 遥介 東北大学
(工学研究科D3)

《マルチディメンジョン物質理工学リーダー養成プログラム》

【発表タイトル】

Fe-Sn nanocrystalline films for flexible magnetic sensors with high thermal stability



引用元：東北大学プレスリリース・研究成果

Toyota Mobility Unlimited ChallengeでDiscovery Award受賞 & Top5 finalistsに選出

平成30年4月11日

【概要】

Toyota Mobility Unlimited Challengeは、トヨタ・モビリティ基金と英国国立科学技術芸術基金が共同実施しているもので、下肢麻痺者の自立した生活支援と移動の自由に貢献する革新的な補装具に関するアイデア発掘と開発支援を目的とした国際的な活動である。佐々木氏が技術リーダーを担うチームは「使用者の起立・着座を可能にし、立位状態で走行できる電動式車椅子」を開発し、日本で唯一 Discovery Awardを受賞した。その後、製品化を目指す最終候補としてtop5 finalistsに選出された。氏のチームは、試作機の開発費用として50万ドルが授与され、令和2年夏の優勝チーム決定に向けて開発を加速している。

【受賞者】

佐々木 海 筑波大学
(グローバル教育院一貫制博士課程4年)
《エンパワーメント情報学プログラム》他8名

【発表タイトル】

Towards Life with Standing Mobility Unlimited



Top5 finalists としてInduction campに参加し開発加速中

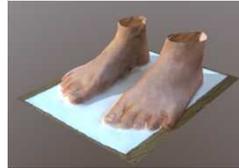
学生の諸活動(例)③起業

「遠隔での身体測定」の開発により ビネット&クラリティ合同会社を設立

【概要】

平成30年7月

研究室とは独立したテーマである「遠隔での身体測定」の開発を行い、2018年7月にビネット&クラリティ合同会社を設立。2019年5月に世界初となる「スマホでオーダーメイド靴」のβ販売を開始。同社の取り組みは日テレNEWS24「スマホで靴をオーダー「足痛い解消したい」」(2018年8月23日)、BSフジ「この国の行く末2」(2019年4月20日)、日経電子版「育て！未来の研究者たち 大学が中高生向けに科学教室」(2019年4月29日)、日経産業新聞 先端技術面「スマホ動画から正確な靴型」(2019年6月11日)で取り上げられた。



【スマホ動画から作成した足の3Dモデル】

【起業者】

安田翔也 東京工業大学
(総合理工学研究科 D3)
《情報生命博士教育院》

オルバイオ株式会社設立、 中小企業補助事業「企業の森」に採択

【概要】

平成30年10月

必修科目であるPBR(プロジェクトベースリサーチ)の一環として設立したオルバイオ株式会社が、公益財団法人京都産業21の実施する中小企業補助事業「企業の森」に採択された。本補助事業は、大学研究機関等など、多様な参画プレイヤーを巻き込んだコラボレーションにより、高い付加価値を有するサービスの創出に取り組む中小企業を支援するもので、オルバイオ株式会社の支援事業は2018年10月1日より開始。



【起業者】

周敬棠 京都大学
(総合生存学館 D3)
《京都大学大学院思修館》

学生の諸活動(例)④社会的活動、学生自主企画

俳句の創作および評論の発表

【概要】

平成30年11月

若手俳人として、平成生まれの東北ゆかりの俳人を集め、地域という枠で括った俳句雑誌「むじな」を年に一度発行している。2018年度はその活動が俳壇的に注目された年となった。2018年号は「グローバル安全学トップリーダー育成プログラム」での成果に基づき、大災害での詩歌の役割を考える紙面づくりを心がけ、各所で大きく紹介された。加えて、角川書店の『俳句』など各所に作品を発表し、若手俳人の登竜門である「俳句四季新人賞」では最終候補に残った。また、2018年度から始まった塩竈市ジュニア俳句コンクールでは選者を務めている。

【発表学生】

浅川芳直 東北大学
(文学研究科D1)
《〈グローバル安全学トップリーダー養成プログラム〉》



NGO「Marine Animal Research and Conservation」の共同設立

【概要】

平成30年7月2日

海洋生物との調和ある共存を目的とするNGO「Marine Animal Research and Conservation」を共同設立した。Marine Animal Research and Conservation (MARC)は、海洋生物への理解を深め、長期的な海洋保護に向けた基盤構築を目的とした、韓国では初の研究志向のNPOである。得られた知見は、科学者のみならず、ひろく一般の人々にも共有していて、LUSH Korea、Dong-Ah Science、C-Program、WWF Korea、The Biodiversity Foundationなどの企業/NGOと協働し、講演会や募金活動等を実施している。

【設立学生】

KIM Mi Yeon 京都大学
(理学研究科D5)
《〈霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院〉》



学生の諸活動(例)④社会的活動、学生自主企画

マルチラーニング教室の立ち上げ・企画・運営

平成30年9月1日

【概要】

サチフル英会話クラブ長久手校と共同で、博士後期課程の学生が一般の方に英語で自身の研究についてレクチャーを行うワークショップを開催した。異文化心理学、言語学、宇宙物理学などについて活発な議論を促進し、専門知識をわかりやすく伝えることに努めたことで、多くの参加者から高評価をいただいた。これらの活動から、国際社会において意見を発信することと専門知識を持つことの重要性を再確認することができた。

【ワークショップの様子】



【企画運営学生】

名古屋大学
胡安琪(教育発達科学研究科)
桑忠林(人文学研究科)
田中俊行(理学研究科)
樋谷将隆(理学研究科)
〈PhDプロフェッショナル登竜門〉

第71回World Health Assemblyへの参加

平成30年5月23日

【概要】

世界看護師協会(International Council of Nurses: ICN)が組織した学生代表団の一員として第71回WHO総会(WHA71)に参加し、WHA Sixth meeting of Committee A Item 11.2- Public health preparedness and responseについての議論の中で、ICNの代表として発言した。発言の中で、「看護職は災害等の健康危機の際に最前線で活動する専門職であり、人々の健康を守るためには、高い能力を持った看護職の確保と育成が重要である。WHOおよび各国政府は、共同して、看護職の資質の向上と人材育成に取り組むことを期待する」と述べた。

【参加学生】

有坂めぐみ 高知県立大学
(兵庫県立大学大学院共同災害看護学専攻D4)
〈〈災害看護グローバルリーダー養成プログラム〉〉

【総会の様子】



(会議の様様: <http://www.who.int/world-health-assembly/seventy-first>)

経済産業省「未来の教室」留職プログラムに採択

平成30年12月16日

【概要】

経済産業省「未来の教室」事業の一環で、NPO法人クロスフィールズが提供する留職に参加した。世界各国で食糧支援を行う国際NGOのカンボジア事務所に9週間滞在し、農村地域の小規模農家への食用コオロギの養殖生産指導や食用コオロギの加工、輸出までのバリューチェーン構築事業等、カンボジアにおける食用コオロギ事業の立ち上げに従事した。留職での成果をもとに葦苺が経営する株式会社ECOLOGGIEは、留職先国際NGOとMOUを締結、留職の枠を超えた関係構築に至った。

【派遣学生】

葦苺 辰矢 早稲田大学
(先進理工学研究科先進理工学専攻LD1)
〈〈リーディング理工学博士プログラム〉〉



【現地での様子】

ニューカマーの在住外国人のシティズンシップや社会包摂を考える対話型ワークショップを企画、運営

平成30年12月24日

【概要】

関西NGO協議会が高校生の国際課題への関心を高めることを目的として開催したワン・ワールド・フェスティバル for Youthにおいて、高校生や高校教員を対象に、特にニューカマーの在住外国人のシティズンシップや社会包摂を考える対話型ワークショップを企画、運営した。同イベントは、外務省、文部科学省をはじめとする多数の団体・機関の後援を受けて開催された。当該履修生は、引き続き写真や新聞記事を使い、外国人への固定化された語りを考え直すワークショップを地域で展開している。

【企画運営学生】

岩根あずさ 大阪大学
(国際公共政策研究科D2)
小泉朝未 大阪大学
(文学研究科D2)
〈〈未来共生イノベーター博士課程プログラム〉〉

【ワークショップの様子】

